

令和4年度 福井県立南越特別支援学校 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
- ・その他

(意見を聞いた方)

開かれた学校づくり検討委員

外部委員(仁愛大学准教授、事業所代表)2名、PTA代表(会長、副会長)3名

卒業生の会代表1名

(意見欄)

○学習支援

・各学部ごとに行われた外部講師を招いての研究会や年間を通して定期的に行われた研修会や研究会により、教員の指導力の向上や授業の充実に繋がっている。
・教材交換会で出された教材を保護者も見たいという意見があったので、今後ホームページの載せることを検討していく。

○生活支援・安全支援

・歯磨きなどの具体的な指導が家庭生活の充実に繋がっている。
・耳鼻科などについて、おすすめではなく、実際に本校の児童生徒が使っているところの情報があるとよいので、PTAで取ったアンケートの結果を今後知らせしてほしい。

○進路指導

・PTA総会時や学習発表会の後など、機会を捉えて保護者に説明会を行ったことは有意義であった。
・今後は、以前行っていたような地域を交えた相談会も実施できるとよい。

○地域支援

・コロナ渦ではあったが、学校間交流や居住地校交流などで直接交流ができた場面もあり、有意義であった。
・中学部の保育園訪問など地域とのつながることができる活動もよい。

○組織運営

・小グループでの活発な話し合いの場を設けたり、タイムマネジメントやタスクマネジメントについて話し合いを持ったりすることで、特別支援教育の専門性の向上に繋がっていると思われる。今後も続けて行い、資質向上に努めてほしい。

○全体(総括)

・少数ではあるが、C、Dの評価を付けている人がいるので、フォローしてできないところを確実にできるようにしていくと子どもの学びが充実していくと思われる。
・教師間の学びは大切であるため、情報を得ながら、いろいろな立場から協力していく体制を作してほしい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

今年度の成果を踏まえ、次年度は、つながりを意識しながら取り組みたい。具体的には、学習支援においては、児童生徒の見取りや記録を大切にしながら授業研究会を充実させ、学部間の学びのつながりも意識して授業づくりの向上を図りたい。生活支援・安全支援においては、学部間の交流の場を設けていき、進路支援においては、ニーズに応じた情報提供の充実を目指したい。また、地域支援においては、地域とのつながりを持てるような活動をしていきたい。組織運営としては、適切な情報提供や共通理解の充実を大切にしながら、全体として教職員が学び合う学校を目指して取り組んでいきたい。